

「ぼうさいこくたい2024」を熊本で開催

内閣府防災担当 参事官（普及啓発・連携担当） 後藤 隆昭



第9回防災推進国民大会、通称「ぼうさいこくたい2024」が10月19日（土）、20日（日）に熊本市で開催されました。

「ぼうさいこくたい」は、内閣府、防災推進国民会議、防災推進協議会が主催し、産官学、NPO・市民団体や国民が日頃から行っている防災活動を、全国的な規模で発表し、交流する日本最大級の防災イベントです。2015年3月に第3回国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組2015-2030」において、各ステークホルダー（企業、学術界、ボランティア等市民団体、メディア等）に災害リスク削減に向けた取組を奨励することが規定されたことを受け、我が国では同年9月には各界各層の団体のネットワークを活用し、幅広い層の国民の防災意識の向上を図ることを目的として、各界各層の団体の長を議員とする「防災推進国民会議」が発足しました。内閣府では、この「防災推進国民会議」及び主に防災に関連する業界団体からなる「防災推進協議会」とともに、各界各層の団体・機関が一堂に会し、防災に関するシンポジウムや展示等を行う総合イベントとして「ぼうさいこくたい」を開催することとし、これまで9回にわたり開催しています。今回は、平成28年熊本地震から8年、人吉市・球磨村等に大きな被害をもたらした令和2年7月豪雨から4年となることから、熊本県、熊本市ほか地元関係機関の協力の下、「復興への希望を、熊本から全国へ ～伝えるばい熊本！ がんばるばい日本！」をテーマとして熊本で

開催しました。九州では初の開催となります。震災後の2019年に竣工した熊本城ホールをメイン会場として、熊本市国際交流会館、花畑広場で開催され、出展数404（うちオンライン22）、現地参加者数約17,000人といずれも過去最大となりました。またセッション等はオンラインでも配信され、その視聴数は約12,000回でした。さらに、併催イベントとして『『世界津波の日』2024高校生サミット in 熊本』が23～24日に開催され、参加高校生の皆さんには「ぼうさいこくたい」にも登壇いただきました。

大会では、くまモンやおもてなし武将隊も登場したオープニングセッションをはじめ52のセッションが実施されました。特にハイレベルセッションでは、「熊本地震とその後の復興と災害への備え」をテーマとして、蒲島郁夫前熊本県知事ほかの登壇者により、熊本での災害を振り返り、その後の創造的復興の取組を全国に発信しました。ワークショップではカードゲームなど来場者が楽しく防災を



オープニングセッションにはくまモン、おもてなし武将隊も登場！



ハイレベルセッションで「創造的復興」を全国に発信



計215のブース・ポスター展示



計77の屋外展示



3月から現地情報共有・連携会議を開催

学ぶ29のプログラムが実施されたほか、113のブース展示と102のポスター展示では各団体の取組が紹介され、77の屋外展示では災害用トイレや、災害医療トレーラー、キャンピングカー、地震体験車、救助関係車両等が展示されました。また、28の出展団体が2会場でステージ発表を行ったほか、オリジナル企画として、全国の防災関係者で構成されるTEAM防災ジャパンによりテーマ別のオリジナルセッションが行われ、初日の夜には熊本城ホール会場で出展団体が順に30秒スピーチを行う「大交流会」も開催されました。さらに、翌21日には熊本県主催の併設イベントとして、「創造的復興見学ツアー」が開催され、阿蘇地区の震災ミュージアムKIOKUや球磨村の水害被災地の見学が行われました。

大会の開催に際しては、熊本県では熊本市、熊本大学竹内裕希子教授、KVOAD (NPO

法人くまもと災害ボランティア団体ネットワーク) 樋口務代表理事、TEAM防災ジャパン等の協力の下、3月より計5回にわたり「現地情報共有・連携会議」を開催し、前年度開催地の神奈川県からのアドバイスを受けるとともに、出展内容のブラッシュアップや出展団体間のコラボレーションの促進を図り、地元から大会を盛り上げていただきました。今回の大会では、熊本はじめ九州地区の防災意識の高さに加え、こうした大会に向けた地元の取組が過去最大規模の開催に繋がったものと考えています。

第10回大会は2025年9月6日(土)、7日(日)に新潟県で開催を予定しています。全国から多くの方の出展、参加をお待ちしています。